

都道府県名

岩手県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	遠野市立遠野小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	
児童数	63	69	67	59	50	65	4	377	24

研究の概要

1 研究主題

学ぶよるこびを感じながら、意欲的に活動する子どもの育成
～ 学び方の習得をめざす指導を通して ～

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 第2学年、第3学年、第4学年、第5学年、第6学年
- ・ 算数科 学校として算数科に関する研究実績があるため
児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため

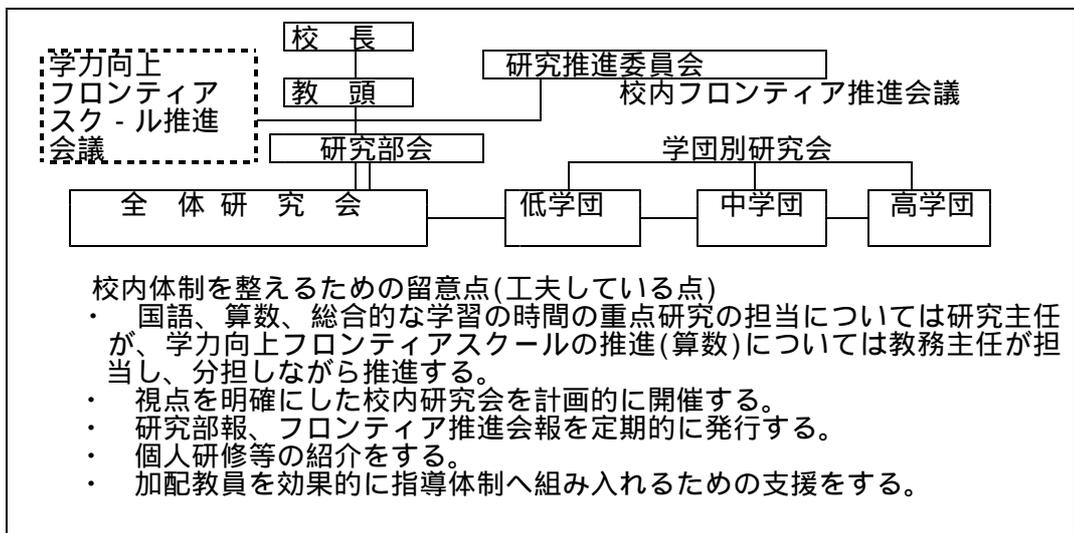
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>「学び方を習得させることにより学ぶよるこびを感じながら意欲的に活動する子ども」を育てるため、算数科において、「学び方の習得」を目指し、授業改善、指導体制の工夫改善、授業以外の対策を図りながら、特に各単元の習熟段階における少人数指導や協力的指導等によって、きめ細やかな指導を展開し、確かな学力の定着を目指していく。</p>
	<p>研究の見通し</p> <p>1 「つかむ」「みとおす」「とりくむ、たかまる、まとめる」「ふりかえる」の学習過程を通して「学び方の習得」を図ることにより、学ぶ喜びを感じながら意欲的に活動する子どもの育成に努める。</p> <p>2 算数科における「学び」に対するそれぞれの力【「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学ぶための力」「学んだ結果としての力」】を明確にし、狭義の学力としての「学んだ結果としての力」に重点を置いて、基礎学力の向上(確かな学力の定着)をめざす。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>【研究の内容】</p> <p>1 「学び方の習得」を図る方策について</p> <pre> graph TD A[学ぼうとする力] --> B[学ぶ力] B --> C[学ぶための力] C --> D[学んだ結果としての力] </pre> <p>(1) 学力とは「教科内容を学習する力(狭義)」と「生きて働く力や転移する力(広義)」の総体としてとらえて、「学び方の習得」を図る。</p> <p>(2) 「学び」に対するそれぞれの力を明確にし、狭義の学力としての「学んだ結果としての力」に重点を置いて、基礎学力の向上を図る。</p> <p>2 授業改善の方策について</p> <p>(1) 児童の実態把握に基づく自学習の場の保障と学び合いの場の設定</p>

	<p>(2) 問題解決的な学習過程を組み入れた「思考力」「表現力」の育成</p> <p>(3) 各单元の中に、定着問題をする場、振り返りの場の設定</p> <p>(4) 各单元の習熟段階における定着強化の場の設定</p> <p>3 指導体制の工夫について</p> <p>(1) 少人数指導、協力的指導（TT）の在り方（解決方法別での対応、1単位時間における習熟段階〔適応問題実施〕での対応、中单元の習熟度での対応〔1C2T、1C3T等〕個別での対応）</p> <p>(2) 習熟度別の在り方（各单元の習熟段階で、希望制によるグループ編成で実施）</p> <p>4 授業以外の対策について</p> <p>(1) 朝学習、いきいきタイムの取組の充実</p> <p>(2) 家庭学習の充実</p> <p>【研究の方法】</p> <p>1 遠野小学校、遠野北小学校、遠野中学校のフロンティアスクール3校で連携を取りながら、研究の推進を図り、成果の普及に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の学習に対する意識・意欲の調査 ・ CRTや学習定着度状況調査等の結果分析に基づく、学期毎のパワーアップテストの実施、定着、再評価 ・ CRT後の補充指導と補充内容の再評価 ・ 各单元の再評価の積み重ねに基づく学期末評価、年度末評価 ・ 児童の学習活動の観察、記録
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>平成15年度の継続</p> <p>研究の見通し</p> <p>平成15年度の継続</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>平成15年度の継続</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

「学び方の習得」を図る方策について

- 1 学習の進め方を教室に掲示して、めやすとして活用を図ることができた。
(学習全体の学び方、算数科における学び方、「読む」「書く」「話す」「聞く」のめあての表を作成)
- 2 「学んだ結果としての力」に重点をおいて、定着問題を工夫することができた。(各単元におけるレディネステストとP1テストの吟味と学期末に実施するパワーアップテストの吟味)

授業改善の方策について

- 1 児童の実態把握に基づきながら、基礎・基本が確実に定着するようなステップを組んで進めることができた。

<ステップ例>

- ・ レディネステストの結果の把握(一覧表で)
- ・ P1テストの結果による設問毎通過率の把握(一覧表で)
- ・ 指導形態の確認
- ・ 習熟段階での手立ての把握
- ・ P2テストの結果による設問毎通過率の把握(一覧表で)
- ・ 単元テストの結果による全国通過率との比較(一覧表で)
- ・ 児童の振り返りの様子や感想の把握
- ・ 補充指導、個別指導

- 2 単元を通じた指導の中で、次のような学年通過率の変容が見られた。

学年	単元名	レディネ ス	P 1	P 2	昨年度C R T設問通過率との比較				単元テスト全国平均点との比較		
					問い	今年度本校	昨年度全国	年度比	学年平均点	全国平均点	全国比
2	100より大きい数を調べよう	81%	67%	84%	問1	90%	91%	1	83点	82点	1
					問2	84%	90%	6			
					問3	72%	80%	8			
					問4	37%	53%	16			
					問5	82%	86%	4			
					問6	47%	55%	8			
3	長い長さのわり方	72%	48%	91%	問1	87%	82%	5	96点	85点	11
					問2	69%	48%	21			
					問3	90%	81%	9			
					問4	98%	92%	6			
4	三角形のなごまを調べよう	80%	29%	93%	問1	93%	81%	12	84点	80点	4
5	計算のきまり	64%	26%	66%	問1	61%	53%	8	81点	83点	2
					問2	74%	68%	6			
6	分数のかけ算わり算	77%	20%	92%	問1	92%	63%	29	89点	84点	5
					問2	97%	87%	10			
					問3	98%	79%	9			
					問4	92%	82%	10			
					問5	92%	83%	9			

指導体制の工夫について

- 1 個々の児童に対する基礎・基本の力を付けるために、少人数指導及び協力的指導(TT)に取り組むことができた。

<少人数指導による算数科の指導>

- ・ じっくりコース： 基本を復習しながらじっくり取り組むコース
- ・ ぐんぐんコース： 教科書問題を中心に確実に身に付けるコース
- ・ ぱりぱりコース： 速く解くことや発展問題に挑戦するコース

- 2 主に1C2Tの形態で行い、各単元の習熟段階の第4・5学年に対しては、1C3Tの形態を取り、個に応じた指導をすることができた。

<児童の意識(少人数アンケート調査の結果より)>

「分かれて学習することで、学習の内容がよくわかりますか?」(%)

学 年	よくわかる	どちらかといえばわかる	どちらかといえばわからない	わからない
4	33	52	15	0
5	33	46	8	13

<児童の意識(T・T指導意識調査より)>

「2人の先生と学習することで、学習の内容がよくわかりますか?」(%)

学 年	よくわかる	どちらかといえばわる	どちらかといえばわからない	わからない
2	4 4	1 4	3 6	6
3	7 6	6	6	1 2
4	6 3	7	1 8	1 2
5	4 5	3 0	8	1 7
6	6 6	1 8	9	7

授業以外の対策について

- 1 朝学習、いきいきタイム（業間時間）の活用を図ることができた。
 - (1) 学びの基礎・基本を大切にする意味で、月～金の朝学習（8:15～8:30）を読書の時間として活用した。
 - (2) パワーアップテスト（期末毎に基礎・基本の定着を図るテスト）の実施と併せて、6、7、9、11、12、2、3月は、ドリル・スキルの充実を図る期間として設定した。特に、2月は、CRTの結果に対する補充指導の充実を図るために、いきいきタイムも活用した。
- 2 家庭学習の充実を図ることができた。
 - (1) 学年の発達段階を考え、家庭学習の進め方を広げ、普及を図った。
 - (2) 家庭に協力を呼びかけ、サインやコメントを記入し、学校と家庭の両面から児童を励ますように呼びかけた。

2. 今後の課題

- 1 遠野小学校、遠野北小学校、遠野中学校の三校で授業研究会への参加等を呼びかけて共同研究を推進しているが、連携の内容や方法を具体化して相互の授業研究を進めていかなければならない。
- 2 習熟段階における系統性を考えた定着問題の作成や吟味が必要である。
- 3 限られた教職員数、限られた時間の中で「個に応じた指導」をするための焦点化した手立ての吟味が必要である。
- 4 習熟段階における少人数指導で、それぞれのコースの中で児童相互のかかわりを強めるような指導の工夫が必要である。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ CRT(国語、算数)..... 第2～6学年に対して12月に実施
- ・ 観点別、領域別の達成度を全国正答率と比べながら、学年・学級で一斉に補充指導をしなければならない項目や個別指導をしなければならない項目を分析し、指導に役立てる
- ・ 知能検査.....第2、4学年に対して6月に実施
- ・ CRTとの相関関係を分析しながら、個別指導をする上での資料として活用を図る。
- ・ 学習(学び方も含む)に関する意識調査.....全学年に対して6月と9月に実施
- ・ 学習に対する意識調査をすることで、児童の意識の変容を見て、個別指導に生かす。
- ・ 学習定着度状況調査.....第3、4学年(国語、算数) 5、6学年(国語、算数、社会、理科)を10月に実施
- ・ 各教科の定着の度合いを確認しながら、学年、学級での一斉指導、個別指導に役立てる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 4月19日 授業参観日/懇談会・・・フロンティアスクールについての説明
 - 7月18日 学力向上フロンティアスクール研究推進会議
 - 8月21日 校内研究会(授業及び指導方法の改善と2学期の研究の方向性)
 - 9月11日 学力向上フロンティアスクール研究推進会議
 - 10月31日 学校公開研究会(国語、算数、総合)
(全学級公開/内算数・・・4学級/遠野中学校、遠野北小学校職員参加)
 - 11月20日 地域参観日・・・フロンティア推進についての保護者への説明等学力向上フロンティアスクール研究推進会議(教職員、保護者代表)
 - 2月6日 授業参観日/学年懇談会・・・CRTの結果説明等
 - 2月後半 学力向上フロンティアスクール研究推進会議(教職員、保護者代表)
- 随時、校報「なべくら」で、学力向上についての取組や授業参観の様子を保護者に伝えており、今後も継続する。
来年度は、家庭学習のやり方等、「学び方の習得」と併せて、保護者に対して啓発を図るリフレット等を作成する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無